

## 議員と話す会報告書

開催日時	令和7年11月13日（木）午後2時～午後3時30分		
開催場所	飯高地域振興局 2階会議室		
班名	2班		
出席議員	代表者 <u>赤塚 かおり</u> ① <u>酒井 由美</u> ② <u>小川 朋子</u> ③ <u>市野 幸男</u> ④ <u>米倉 芳周</u> ⑤ <u>濱口 高志</u>		
	司会進行者	<u>酒井 由美</u>	
	報告者	<u>米倉 芳周</u>	
	記録者	<u>酒井 由美</u>	<u>小川 朋子</u>
参加人数	8名		
意見・要望等 主な質疑応答	別紙のとおり。		
代表者の所感	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 濱口 高志 様

令和 7 年 11 月 19 日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

2班

代表者 赤塚 かおり

### 【開催形式】

- ・参加者より、意見交換のテーマを提案していただき、以下のテーマ項目にて3班に分け ワークショップ形式にて行う。

### 【テーマ項目】

共通テーマ：中山間地域の活性化

#### A グループ

- ・公共交通について
- ・農業・観光業・その他産業について
- ・人口減少・その他

#### B グループ

- ・香肌小学校親子山村留学について
- ・コミュニティバス運行について
- ・獣害対策について
- ・沿道の除草作業について

#### C グループ

- ・過疎対策について
- ・獣害対策について
- ・国土を守るという視点について

### 【班の構成】

◎A グループ：小川議員、市野議員

ファシリテーター：市野議員 記録：小川議員

市民参加：3名（男性2名・女性1名）

◎B グループ：赤塚議員、米倉議員

ファシリテーター：赤塚議員 記録：米倉議員

市民参加：2名（男性2名）

◎C グループ：酒井議員、濱口議員

ファシリテーター：濱口議員 記録：酒井議員

市民参加：2名（男性2名）

## 1. 意見交換

### 【主な意見等】

#### ■A グループ

##### ①公共交通について

###### ●交通・移動の課題

- ・買い物や通院に不便を感じる高齢者が増加。
- ・飯高・飯南地区内だけの循環では不十分で、大石方面まで行ける広域的な交通支援の必要性。（令和8年4月より運行予定）
- ・（海辺の地域にも好事例になりえる）

##### ②農業・観光業・その他産業について

###### ●中山間地域では、農業と環境の維持が生活の基盤であり、最大のテーマ。

- ・担い手不足が深刻化する中、茶業において、抹茶ブームによりお茶の価格が上がるなど、地域産業に新たな可能性。
- ・農業と観光を組み合わせた「体験型」・「滞在型」の取り組みも検討が必要。
- ・「観光」ではなく「観光業」に力を入れて、町を元気に。

###### ●地域資源のブランド化。

- ・環境と海の豊かさは、ここ山間部から繋がっている。
- ・海の「アサリがとれない」「海藻が減った」といった声があり、海の栄養バランスが変化している。“きれいな海”よりも“豊かな海”を取り戻す観点から、流域全体での環境保全の方向を見直す必要性。
- ・海側地域での「あおさ」や山間地域の「お茶」など、松阪ならではの特産品を市全体でブランド化。

##### ③人口減少と人材確保について

###### ●地区によっては65歳以上の高齢者が半数を超えており、地域活動の担い手が不足している。

- ・若者が地域に定着できるよう、働く場所の確保と地域産業の振興が不可欠。

##### ④コミュニティセンター・地域活動について

- ・地域団体やボランティア活動における施設利用料の基準が不明確との指摘。
- ・営利目的ではなく地域のための活動であれば、柔軟な運用が求められるが、一方で、行政職員側も判断に迷う場面が多く、運用ルールの明確化が必要。

（意見のまとめ）

飯高地域では、「定住」「仕事」「環境」「つながり」の4つの柱が共通課

題として挙げられた。

地域資源を活かした産業づくりと、誰もが安心して暮らせる交通・福祉体制を整えることの重要性、そして、「持続可能な地域づくり」へと展開、推進することが大切である。

全てにおいて、議員の個別活動にとどまらず、市議会全体として、地域に合うテーマを決め、総合力を活かして取り組むべきとの意見が出された。

### ■B グループ

#### ①香肌小学校山村留学について

●香肌小学校山村留学については、地域方と保護者の有志による実行委員会が担っており、全校児童数 11 名までとなった時期から、山村留学制度を開始。現在は移住者の増加により児童数 27 名となっている。

・山村留学等の移住者には「空き家バンク」を利用して、住む物件を探すが、第一の課題はトイレ状況にある。トイレの改修に伴い、市から補助金を活用するが、6 月から受付けが開始され、9 月には締め切る制度であるため、1 年間で 4 か月の猶予しかない。時期を逃した移住者には、問題のある期間設定であるため、苦慮しているのが現状。通年の受付制度に変更が必要。

#### ②コミュニティバス運行について

●7 年越しの要望であったデマンド型コミュニティ交通が、飯高地区から飯南地区、大石地区まで拡大運行決定（令和 8 年 4 月より）に際し、市に対し地域住民として心からお礼を言う。

#### ③獣害対策について

●沿道の防災無線機能を活用して、獣が嫌がる電波を流し、車との接触（事故）を回避するシステムを、熊対策にも活用してはどうか。

#### ④沿道の除草作業について

●国道・県道等の沿線の除草作業が、地域住民の高齢化のため、できなくなっている。行政側も年 2 回が年 1 回と予算削減されており、沿道が危険になり、地域の安全が守れなくなっている現状がある。

#### （意見のまとめ）

中山間地域の高齢化に伴う様々な課題や問題点がある。また、人口の減少も相まって、地域に配置された行政職員も減少傾向にあり、益々地域の活性化に逆行している現状を今後、どのように捉えていくのか。

そのような状況下においても地域住民同士が協力し、あらゆる手段を用いて地域を活かすことを図っているのが見える。それは、小学校児童の増加策であ

ったり、公共交通の利用の促進や地域の環境整備を住民同士で行っていることでもある。

### ■C グループ

#### ①過疎対策について

- 若者が気軽に家庭菜園や小規模農園を始められる仕組みが必要との意見。
  - ・補助金を活用し、若者が気軽に菜園に取り組める仕組みづくり。
  - ・家庭菜園で余った野菜を道の駅（飯高駅）等で販売できる仕組みづくり。

#### ②獣害対策について

- 獵師の高齢化により捕獲体制が弱体化し、移住や定住に影響している。
  - ・熊退治に唐辛子スプレー等では限界があり、効果的な対策が必要。
  - ・大木の成長により餌が育たず、野生動物が人里に降りてくる構造的な問題。
  - ・大台地域では熊の生息が多く、早急な対策を。
  - ・避妊薬混入エサの活用。
  - ・人里の高カロリーのエサが、熊の繁殖を促進する。
  - ・熊来策に、豚コレラ薬剤散布の成功事例を参考にしては。

#### ③国土を守るという視点について

- 国土を守る視点が国政では十分に議論されていないとの意見。
  - ・かつては、中山間地域が果たす水源利用、土砂災害抑制、生態系保全の重要性が共有されていた。

（意見のまとめ）

中山間地域の活性化を進めるうえで、最優先課題は「徹底した獣害対策」であるとの認識。

また、獣害対策なくして農業振興・移住定住・経済活性化は進まないため、森林管理・捕獲体制・科学的手法を組み合わせた総合対策の強化が必要。

中山間地域の活性化への考え方として、地域を「守る」だけではなく「活用する」ことへの考えも重要。

## 2. 「議員と話す会」を終えての所感

飯高・飯南地域を中心とした中山間地域の現状や課題について、住民の皆様から幅広いご意見を伺うことができた。人口減少・高齢化という共通の課題のもとで、「移動」「産業」「環境」「定住」「地域活動」など、生活基盤の持続可能性をいかに確保するかが地域の未来を左右する大きなテーマであることが改めて共有できた。

まず、公共交通に関しては、買い物・通院に不便を抱える高齢者が増加するなか、地域内移動にとどまらず大石方面までを含めた広域的な交通支援の必要性が指摘され、デマンド型交通の拡大運行は、大きな前進であり、住民ニーズを丁寧に受けとめる行政の姿勢が地域の信頼につながることを実感した。

産業面では、農業の担い手不足が深刻化する一方、抹茶需要の高まりなど、地域資源の新たな可能性も示された。農業と観光を組み合わせた体験型・滞在型の取り組み、さらに山間部と海側地域をつなぐブランド化など、「稼ぐ地域」をめざす視点が住民から積極的に語られていたことが印象的である。また、海の栄養バランスの変化と山間部の環境との関わりを指摘するなど、地域を流域全体で捉える視点の重要性も示された。

移住定住に関しては、香肌小学校の山村留学によって児童数が増加している好事例が挙げられた一方で、空き家バンクにおけるトイレ改修補助制度の受付期間の短さなど、制度運用の課題も明らかになった。移住希望者が機会を逃さないよう、柔軟で実態に即した制度改善が求められる。

また、獣害対策はすべてのグループで最優先課題として共有され、捕獲体制の弱体化や農業への影響だけでなく、移住定住の阻害要因になっている現状が強く問題視された。電波を用いた防止技術など、科学的手法の対策も有力なアイデアの一つである。

地域活動や公共施設の利用に関しては、ボランティア団体に対する利用料基準の不明確さや、行政側の判断の難しさが指摘され、ルールの明確化と現場での柔軟な運用のバランスが求められるとの意見を共有した。

総じて、住民の皆様は、過疎化が進む厳しい状況にあっても、地域を守り、活かし、未来につなげるために主体的に行動しており、その努力を確かな成果につなげるためには、私たち議員や行政が個別対応にとどまらず、市議会全体として地域に合った重点テーマを掲げ、総合的な政策展開を進めていくことが不可欠であると考える。

今回、得られた多様な意見は、今後の政策検討や市議会活動における大切な指針となるものであり、住民とともに「持続可能な地域づくり」を進める必要性を改めて強く認識するものであった。

以上

## 議員と話す会の様子

